園のおたより

第　４　号

令和２年７月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

夏の楽しみ

園長　小倉　康

日照時間がとても短い７月です。梅雨とはいえ，この 20 日間の日照時間は平年比の約 50％です。各地で大雨による災害が発生しています。お米をはじめ様々な農作物の生長も心配です。晴れの日が待ち遠しく思えますが、暑すぎるのも問題です。今も昔も自然の変化の影響を強く受けながら、災害を避けて安全に生き続けることが人間にとって何よりも大切で難しいことなのです。夏休みで行動範囲も広がることと思いますが、台風、洪水、鉄砲水、山崩れ、雷、竜巻、地震、津波、火山噴火など数多の自然災害、および新型コロナウィルス感染その他の健康被害、そして交通事故や海山での事故に十分気をつけて、子どもたちと自由な時を楽しんでいただきたいと思います。

私の夏休みの楽しみの一つは、夜空を観ることです。都会から離れると、星々がとても賑やかな夜空が観られます。肉眼で天の川が確認できるような星空に出会ったときは、ずっと眺めていて時間を忘れられる美しさを感じられます。都会では街に照らされてうっすらと明るい空に、点々と一等星や二等星が数十個見られる程度です。でも、そういう空でも単眼鏡（数千円で購入できます）を覗き込むと、肉眼では見えなかった数え切れない星々が視野全体に拡がっている様子が観られ、宇宙の深遠さが感じられます。月面も拡大して観ると複雑で面白い模様をしています。天体望遠鏡を立てたり、カメラで撮影したりすると、さらに楽しみが膨らみます。私は詳しくありませんが、星座にまつわるギリシャ神話も興味深いお話の宝庫です。

今夏は、夜、南の方向に 2 つの明るい星が近くで輝いています。惑星の木星と土星です。惑星は太陽を中心に回っていますが，地球を挟んだ太陽の反対側で，木星と土星が地球と同じ向きに回っていると想像してください。ぜひ、雲が晴れた夜はご家族で夜空の楽しみを感じてもらいたいと思います。

私たちが目指すもの

副園長　清水　愛子

「朝は一人でさわやかにとび起きて、まえの晩、自分で用意した清潔な衣服を、順番まちがいなくすみやかに身につけて、忘れ物いっさいないカバンをもって、元気に家をとび出し、近所の人に出会ったら、むこうからあいさつされるまえにさわやかにあいさつし、友だちにはやさしく、校庭のすみっこの小さな花にも気づいて感動し、全教科に関心をもち・・・ゲームも少ししかやらず、夜は宿題をやって、テレビを見ないで早く寝る・・・」（「幻の子ども像」青木悦著　坂本鉄平事務所）

私がまだ幼い子を育てているとき、目にした本の中の言葉です。

こんな風に育ってくれたらいいな、おまけにスポーツ万能で、成績優秀で・・・なんて思っていたかもしれません。しかし子どもを育てていく中で、この本のタイトルどおり、それは子どもに対する幻の理想像だとようやく気が付いていきました。

親をはじめ周りの大人はこんなふうに育つよう願いをもって、時に模範を示しながら育てていきますが、周りやその子、その時の状況でこのとおりにはなりにくい、あるいはならないことが多いのかもしれません。

そんなときにまた別の本の中で目にした次の言葉が胸に刺さりました。

「１００メートルを１０秒で走れといわれてもさ、いっくら努力しても走れないやつっているじゃん」（「輝ける子」明橋大二著　１万年堂出版）

自分だって求められてもできないことがたくさんあったなと、振り返って痛感することしきり。

こうなって欲しいと親が子に願いをもつのは当然ですし、とても大事なことだと思います。でもそれは親の願いに過ぎないという視点も常に忘れてはなりません。そうでない目の前の子どもを否定することなく、まるごと受け入れて、そういうことも面白がりながら大切に子育てしていきたいですね。皆様と、お子さんの幸せのために。

かくいう私も、まだまだその最中ですが。

クラスだより

１くみ

「安心して　ありのまま」

雨の日が続く梅雨らしいこの頃。１組さんは『あまだれぽったん』の歌を歌っています。雨が降ると歌いたくなる歌で、どこからともなく聞こえてきます。

先日は大粒で激しい雨が降りました。テラスで雨の様子を眺めながら歌いだした子がいました。かわいらしい優しい歌声をかき消すように大きな音で降り続く雨に、次々と友達が集まってきて歌いだし、力強い歌になりました。心が一つになったように感じて嬉しく思いました。

雨上がりには、芝生にしずくがたくさんありました。ぷるんとしたしずくを、じぃっと見たり手で触れたり、足で蹴飛ばしたりして全身で雨を味わう姿が見られました。

そんなふうに梅雨の時期ならではの遊びを十分に楽しむことができました。

また、入園から２ヶ月が経ち、幼稚園が楽しいところということが分かり、安心して過ごすようになった１組さん。思いのままに自分を出しながら、自分と違う思いをもつ友達がいることに気付くようにもなってきました。

保育室では、段ボール電車（京浜東北線）で遊んでいます。以前は「次は～おおみや～おおみや～」「次は～きたうらわ～」とアナウンスをしたり、乗っている気持ちになって楽しんだりしていました。ある日、「てっぱく」に向かって進んでいる電車の中で「先生この電車は、つり革がないね」と言う子がいました。すると周りの子も、つり革という言葉を聞いて「知ってる知ってる」と嬉しそうにしていました。何人かで新聞紙を丸めてつり革を作り、ますますそれらしい電車になったことで、お客さんが増えました。誰かのつぶやきが広がって、みんなのやりたい気持ちを高め、電車ごっこがさらにおもしろくなりました。

砂場では、葉っぱや草の「焼肉」を焼いたり、砂のケーキを花で飾ったりしています。焼肉屋さんでは同じ形の葉っぱや草が、時にお肉になったり野菜になったりして、子どもたちのイメージはおもしろいなと思って見ています。

また、水を使って遊ぶことが楽しい子どもたちは、川を作っています。何度も何度も水を流す子、繋げることに夢中な子、川を走る車を動かす子、なんと人面魚になって出てくる子・・いろいろな楽しみ方があるダイナミックな川作りです。

このような遊びをする中で、それぞれの遊びの楽しさに引き込まれて、次々と仲間が加わることの嬉しさも味わっているようです。

２くみ

「色々なものになってみる」

あっという間の１学期が終わりを迎えようとしています。今、２組さんは色々なものになりきって遊んでいます。

ジュース屋さん、毛糸のラーメン職人、お姫様など･･･、遊びの中で思いきり自分のイメージを膨らませることを楽しんでいます。

ある日の降園時、『むしにんじゃ』の絵本を読み終えるとたくさんの“むしにんじゃ”が登場しました。そこで翌日、みんなで忍法の修行をすることにしました。「僕はこうやったんだよ」「わたしもそうやった」と自分の動きを友達や教師に伝えたり、言葉や絵本のイラストから連想される動きを一人一人が思い思いにやってみたりして楽しみました。しかし、その修行の後も「子ども忍者」は終わりません。手洗いうがいや着替えの時も、「ぬきあし、さしあし…」と足音を立てないように動いたり、「そんなに大きな声出しちゃだめだよ」とひそひそと声を掛け合ったり、いつもの活動も忍者の修行に早変わりしていました。

また、ある日の片付けの際には、A ちゃんが積み木を片付けながら言った「早くプレゼントを運ばなくちゃ！」という言葉をきっかけに、たくさんのサンタさんが登場し、「積み木プレゼント」をせっせと運び始めます。少し難しい積み木の片付けも「プレゼントだからきれいに積まないと」と、１つ１つ丁寧に積み上げ、最後まで積み上げることができました。

何かになりきることでいつもの私ではできないけれど少し難しいことに挑戦しようとしたり、いつもの生活の繰り返しをとっておきの楽しみに変えてしまったりします。そんな子どもたちの「やってみよう」「楽しそう」という気持ちをこれからもたくさん引き出せるようにしたいと思います。

１学期の保護者の方々のたくさんのご理解とご協力に心より感謝いたします。これからもどうぞよろしくお願いいたします。暑い日が続く中ですが、みなさま元気にお過ごしください。

３くみ

「いらっしゃいませ！」

７月は雨が続き、室内での遊びが中心となっています。特にお店ごっこは、毎日人が入れ替わりながらよく続いています。６月末の保育参加でご紹介したパフェ、寿司、パンの品物を、テーブルに並べて開店です。それぞれの店舗の前にはカフェカーテンをつけて、開店・閉店を知らせます。店員になりたい人もいれば、品物を買って自分たちの積み木の「家」に持ち帰りたい人もいます。最初は「〇〇ください」「どうぞ」とすぐに渡していたやりとりが、「お金作ろう」と、お手製の紙幣で買い物をするやりとりに変わりました。さらに『まだあいてません』といった案内板を作って貼ったり、レジを作ってお金を入れたり、『〇〇や』の看板をつけたりするなど、一人一人のアイディアが集まって、保育室の一角がとても賑やかになっています。「もっとお店を増やした方がいい」というアイディアから、花屋（折り紙の花）、うどん屋・そうめん屋（白い毛糸の麺）、ポテト屋（揚げ用フライパンも紙で手作り）と新規の開店も続いています。

やりとりをよく聞いてみると「デリバリーもできます」「カード払いでお願いします」「ペイペイとかもできます」といった言葉まで出てきており、驚かされることがあります。思い返すと、ずいぶん前の“携帯電話”は、空き箱にストローを一本貼り付けたものでした。同じ頃、数字ボタンをたくさん紙に書いた“パソコン”も登場したように記憶しています。時代や地域によって再現される内容は変わっても、実社会を遊びに取り入れていくことは、子ども期のごっこ遊びの重要な部分だと感じます。引き続き、いろいろなごっこ遊びのやりとりを大切にしたいと考えています。

今月３組で一番人気の歌は『ぼくのミックスジュース♪』です。良いことも、ちょっと大変なことも、全部混ぜて飲んでしまえば、朝も昼も夜も大丈夫――そんな歌詞の通り、明るく夏を過ごしていきたいと思います。